



## チェックリストの使い方

### <学習者の使い方>

この本では、学習者が自分の会話をモニターする能力を養成することを重視しています。STEP3で自分たちの会話を録音し、チェックポイントまたは学習した POINT を参照しながら振り返る作業を行ったのちに、チェックリストを記入することで、自分の習得状況を確認するとともに、今後の目標設定をすることができます。ポートフォリオとしてファイルに入れることで自分の到達度合いを見ることが可能になります。

### <教師の使い方>

教師がチェックリストを回収し、提出された会話音声と比較しながらコメントを返すことで、学習者が自分の会話をモニターする能力を養成することができます。また、授業内に発表できなかった学習者たちにもフィードバックを与えることができます。特に大勢のクラスでは、教師が個別に学習者の考え方を知り、コメントできる貴重なツールとなります。さらに、成績評価の一環としてお使いいただくことも可能です。

### チェックリスト記入上の注意点

- ◆チェックポイントは、STEP2の POINT にそれぞれ対応しています。STEP3の「話そう」で POINT の表現をしっかり活かすことができたか、学習者にチェックさせてください。
- ◆最後のチェックポイント（↓の下部）は、この本の最終目的である「関係作り」に関するチェックポイントです。「話そう」で会話をした相手と関係を深めることができたかどうかをチェックさせます。
- ◆今後の目標を書く欄では、学習者に録音した音声を参照させながら、ぜひ具体的に記入させてください。「自然な会話ができるようになりたい」「あいづちがうまくなりたい」といった曖昧な目標ではなく、各課の学習内容に関連した目標を書かせるようにしてください。

例) 自分と違うところについて話してもらうことができなかった。

「読書サークルって、たいくつなんじゃない?」と相手に否定的な表現を使ってしまったからだと思う。次に同じような会話をするときは、「読書って一人でするイメージなんだけど」や、「読書サークルって、難しそうなイメージなんだけど」などのように相手の話を引き出せるような表現を使えるようにしたい。

それに加えて、各課の学習内容に限らず、学習者が音声を聞いて振り返る中で感じた疑問点や改善すべき点を自由に記入させても構いません。